春陽會ニュース

年頭言

水村莊八

編集部から年頭言を求められたので――絵の仕事というものは大なり小なり、又善かれ悪しかれ「絵画」の中に新世界を打建てる心で向わなければならないものだが、ドラクロアは屢に自然を指して辞書だと云ったそうだ。この「辞書」はどこ迄も引かなければならないし、たゆまなければならない。辞書をしに頼むということは無責任を恐れないという程具体になるだけのことだが、それと同時に、自然は又「材料」でもあるから――先人の使った言葉の方が響きがよければ、ゼザン又の云った「モチーフ」――このモチーフは、われ〳〵これを活用する以外に、仕事のしようはない。

自然は、見なければならず、扱らなければならず、振らなければならないものである。

深くそうすれば、そうする程、良いものであろう。然し――「学実」ということは、余程気を付けてかからないと、一つの陥穽となる。十八世紀以来印象派にかけて先人の振り返した穴がある。

これが陥穽となって、足もとを危うくしかねない。学実の「実」と云って、われ〳〵が、何を学ぶんとするか。気をつけないとこの「実」(リアリテ)の蹄に足をすくわれて、穴に落ちることがある。

自然にはそれはないのである。「モチーフ」は「実」ではない。辞書は芸術書でない如く、勿論、「聖書」でもない。

学実とは何ぞや？

これは自然の辞書に学んで、絵かきがそれぐの持つ語彙、即、メチエを、翻訳し、習熟しつゝ文法すること――と例えて云って良いと思う。

絵かきは自然を識らなければならないと同時に、絵の具について識らなければならないもので、絵の具へ目を向けることも、謝う捷径、即ち学実だと思う。

× ×

自然の前で恍然として絵がかけるようになれば――これこそ神の前で平然とクソをつける人間になれば」と云う言葉と同じように思うが――面白いと思っている。それにはこちらのシステム(芸術製造器械)と余程がっちり摑まえていないことには、難しく、そのコツは、絶えず自分をメチエの修熟にあること元より欠くべからざる一法であると共に、矢張りそれより先きに、絶えざる思想修練、いわゆるエスプリ訓練が(人間の陶冶と云っても良い)常になければならない。このリクツは永世不変であろう。

× ×

ボナールの如き人は驚くべきである。その八十年間を通じて、「手」は絶えず動かして如何なる熟練工よりも上に練磨を怠らなかった。同時に――「手」を鍛んずることは既でに芸術家たる資格を実証したことであるから、意味のないことである。――

思想的(エスプリ的)輝耀に輝耀を重ねて、この大家は、近世の教授代をじっくりと踏み越えた。衆家たちの最者を示し同時に人たる範を示した。(T.S.)

謹賀新年

昭和二十四年元旦　春陽會

昭和二十四年度 第26回春陽会展 南画要項

期日　四月一日～十六日
於　東京都美術館南側
搬入受付　三月二十五日
〃　二十六日
午前九時より午後四時迄

搬入　三月二十七日
〃　二十八日
(午後二時迄)

搬入搬出
招待日　四月一日
出品者無料観覧　二日
出品者　二〇〇円
出品実費制限ナシ

○今回は地方会場巡回展をしません。出来る限り役員者を動員して下さい。出品手続は当日の住所を記入して送ります。(東京都大田区南馬込町一丁目一番地と明示)

○地方出品者は三月二十日迄に到着する様に記入して送り下さい。(東京都台東区上野公園第六美術館ホンヤ南会)

○搬送料の所納は、会費と共に、元依頼すれば、代納してこの搬入してくれます。(東京都台東区谷中長明寺三丁目紗天堂)

○尚、下記作品の方は、出品者のみ、ご注意願ります。

以上